

## レボフロキサシン 500mgの 炎症性鼓室粘膜への移行性の検討

笠井美里 楠 威志 古川正幸  
飯塚 崇 伊藤 伸 池田勝久  
順天堂大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座

**【目的】** Levofloxacin (以下LVFXとする) 耳鼻咽喉科感染症に優れた有用性が認められている。ニューキノロン系抗菌薬の抗菌作用は濃度依存性であり、これまでも効果的な投与法が検討されてきている。本邦では従来1日600mg分3で投与されることが主であった。

今回鼓室硬化症の症例に対し術前にLVFX500mg 1日1回投与を行い組織・血中への移行性、有用性、安全性を検討した。

**【方法】** 平成23年7月から平成23年2月の期間に当科で鼓室硬化症に対し鼓室形成術を施行し、研究への参加の同意が得られた5症例に対し手術開始1時間前にLVFX (500mg) 1錠を内服させ手術中に採取した鼓室粘膜内濃度、血中濃度を測定した。

**【結果】** LVFX投与約2時間後の鼓室粘膜組織内濃度は $6.4 \pm 2.0 \mu\text{g/ml}$ 、血中濃度は $1.82 \pm 2.0 \mu\text{g/ml}$ であった。術後創部感染、発熱、有害事象は認めなかった。

**【考察】** 組織内濃度は血中濃度よりも高い移行を示した。今回の組織内濃度、血中濃度は先行の報告と比し、1日600mg分3投与した場合の濃度よりも高く(酒井ら, 2010)、1日400mg分1投与した場合と同等の移行性を示した(Tolsdorffら1993, Himmelfarbら1993)。